

GCI

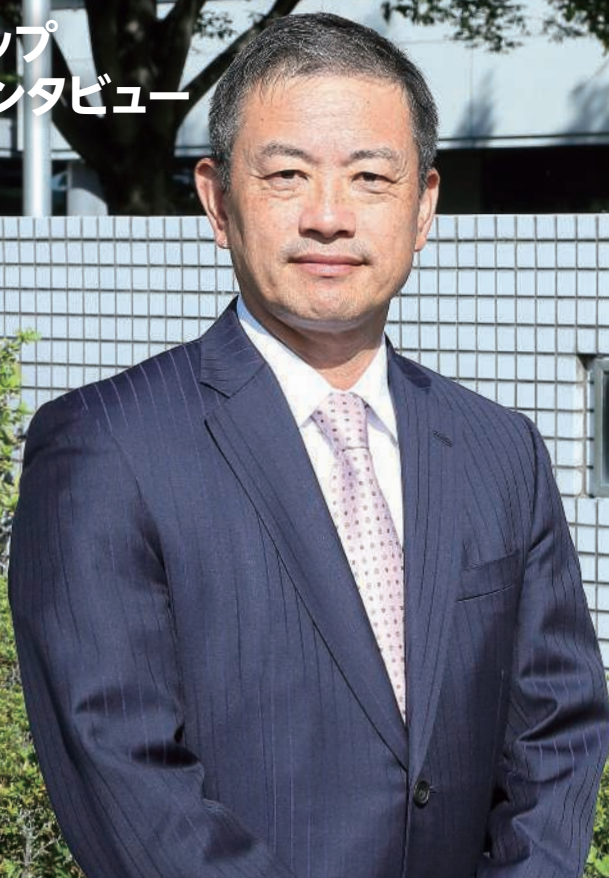
2025 Interim Business Report

第109期 中間報告書
2025年4月1日～2025年9月30日

群栄化学工業株式会社

証券コード：4229

01 トップインタビュー



05 GCIグループ 中期経営方針2030



06 サステナビリティ & トピックス

パーソナルケア商品発売

詳しくは6ページを
ご覧ください。



広い視野で未来を見据え、
化学の新たな可能性で
社会の持続的成長に
貢献します。

代表取締役 社長執行役員
有田 喜一郎



Q

前期に終了した「GCIグループ中期経営方針2024」をどのように総括されますか？

A

今後の成長に向けての布石を打てた3年間だったと考えています。

「GCIグループ中期経営方針2024」（以下、前中経）では、最終年度である2025年3月期業績目標を連結売上高350億円、連結営業利益40億円（営業利益率11%）を掲げましたが、実績は連結売上高305億円、連結営業利益22.9億円（同7.5%）となりました。前中経では、コロナ禍でのリモートワークの普及などによる電子材料の伸長や、リチウムイオンバッテリーの部材の製造工程で使用するカイノールの拡大を主たる牽引役として据えていましたが、実際には急激に伸びていた電子材料が在庫調整の局面を迎え、加えてEV市場の成長が鈍化したことなどが業績面に影響を及ぼす形となりました。

こうした市場環境が大きく変化する中でも成長可能性を的確に見出したことや、設備投資を当初計画から30億円近く上積みして実行するなど、政策面ではこれからの成長のための布石を着実に打つことができたと考えています。具体的には、しばらく厳しい状況が続いていたインド子会社では、高品質な当社製品に対する認知が進んだことで漸くビジネスが軌道に乗り始め、現地工場を拡

張移転しました。電子材料分野では半導体の販売を着実に伸ばし、先端材料分野における新製品開発を進めるとともに、電材新工場の建設のため設備投資額を引き上げて実施しました。カイノールについては足元では落ち込んでいるものの、先々の確実なニーズを見据えて増産投資をしっかりと行うことができました。また、キャッシュアロケーションの面では、利益配分に関する基本方針を見直し配当性向目標を30%から40%に引き上げ、1株当たり配当も100円まで引き上げました。

あらためて振り返れば、この3年間は投資実行フェーズであったと言えるでしょう。今後は投資回収フェーズとして、これまでの取り組みをしっかりと結果に繋げていきたいと考えています。

Q

新たに始動した「GCIグループ中期経営方針2030」で掲げる“ありたい姿”に込めた想いについてお聞かせください。

A

より広い視点で化学を捉え、そこにコア技術を結び付けた成長の実現を目指します。

前中経では、冒頭部分を「合成・糖化技術の開発・再構築により」としていた“ありたい姿”について、「GCIグループ中期経営方針2030」（以下、新中経）では、「化学の力でグローバルにソリューションを提供し、社会の

持続的成長に貢献する“Green Chemical Industry(GCI)”となる」を掲げました。言い換えると、当社として化学というものをもう少し広い視野から見据えて、新しいものに目を向け、それらを活用して世の中に貢献していくという想いを込めたものです。当社はこれまでフェノール樹脂と異性化糖などを主軸に事業を展開してまいりましたが、国内の人口減少や自動車産業が停滞する中で、これからより強い企業体となっていくためには、新しい分野の開拓が必須となります。2030年に目指す新たな姿への歩みは始まったばかりですが、より広い視点で化学を捉え、そこに我々のコア技術を結び付け成長していきたいと考えています。

「GCIグループ中期経営方針2030」で展開する施策の要点を教えてください。

 先に申し上げたように、前中経では予期せぬ市場環境の大きな変化などもあり、業績面でやや苦戦を強いられたものの、目指す方向性自体は決して間違っていなかったと認識しています。その根拠の1つとして、この3年間の連結売上高は安定して300億円台をキープすることができました。こうした中、新中経では前中経の方向性を基本的に受け継ぎながら、各領域でより磨きをかけた取り組みを展開してまいります。

その一環として今回の新中経では、前中経での「高機能糖ケミカル」に代わって「新事業創出」を4つの目指す方向性の1つとして組み込みました。また、「環境対応ケミカル」と「新事業創出」を合わせて“Greenを中心とした次なる新事業へ(第2の柱)”の創出を目指すことを、グループ全体への意識浸透も狙って明確に打ち出しました。これこそまさに前述の“ありたい姿に込めた想い”による取り組みであるともいえます。短期で結果が出るものではないことを認識のうえ、幅広い化学の力で新しい事業を育てていきたいと考えています。

そのためには受け身型ではなく、より自ら新たな価値を作り上げて提案していけるような姿勢、風土、チャレンジ精神が必要です。

そこで鍵となるのが人的資本経営とデジタル化の推進です。人的資本経営では、社員一人ひとりの主体性を引き出す人材育成や意識改革を進め、またデジタル化では業務効率化やデータ活用による意思決定力の向上を図ることで、持続的成長を支える組織基盤の強化に取り組みます。

このような点も鑑み、新中経の最終年度目標は、現時点における当社の状況を踏まえたうえで、あえて高い水準に設定しております。新しい領域に挑戦することによって見えてくる世界は変わります。そういった積み重ねにより、さらにチャレンジできる組織に変えていきたいと考えています。社員の奮起を期待し、全グループ役職

員が一丸となり、しっかりと結果を出していきたいと考えております。

「GCIグループ中期経営方針2030」の滑り出しとして、当上半期の状況はいかがでしたか。

 厳しい環境の中、企業成長の重要な要素である連結売上高は前年同期を上回り、営業利益においても増益となりました。

化学品事業の状況は、環境関連向け高機能繊維の溶剤回収用途等が中国における在庫調整の継続により低調に推移しました。一方、電子材料関連向け樹脂では、液晶用途は価格競争の影響を受け低調に推移したものの、半導体用途は生成AI用途等のメモリ需要が好調だったことにより堅調に推移しました。また、自動車関連向け樹脂は前年同期の国内一部自動車メーカーの生産停止の影響からは回復傾向となり、堅調に推移しました。

化学品事業の海外展開では、インドやタイの在外子会社において一般工業材料の販売が堅調に推移しており、グループ全体で採算是正及び業務効率の改善等に取り組んでいます。

食品事業の状況は、外食産業を始めとする業務用需要やインバウンド需要により回復傾向となりましたが、商品構成を見直したことにより販売数量が減少し減収となりました。

その結果、上期の連結業績は、売上高155億65百万円(前年同期比2.5%増)、営業利益13億98百万円(同13.2%増)、経常利益15億10百万円(同5.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益9億73百万円(同1.4%減)となりました。

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

 この先、創立80周年を超えてより活力あるGCIグループを目指します。

お陰様で当社は来年1月に創立80周年を迎えますが、これを1つの通過点とし、さらに発展するためには、先に述べた新中経の“ありたい姿”の実現に向けた、これまでの延長線上にはない新しい成長ドライバーが必要となります。その新しい成長ドライバーを、今回始動した「GCIグループ中期経営方針2030」の中でしっかりと確保し、その先の90年、100年を見据えてより活力あるGCIグループの構築を目指したいと考えております。また、そのような夢を皆で共有して働いていけるようなGCIグループを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結決算ハイライト (当中間期の業績)

売上高

15,565百万円

(前年同期比2.5%増)



経常利益

1,510百万円

(前年同期比5.2%増)



親会社株主に帰属する
中間純利益

973百万円

(前年同期比1.4%減)

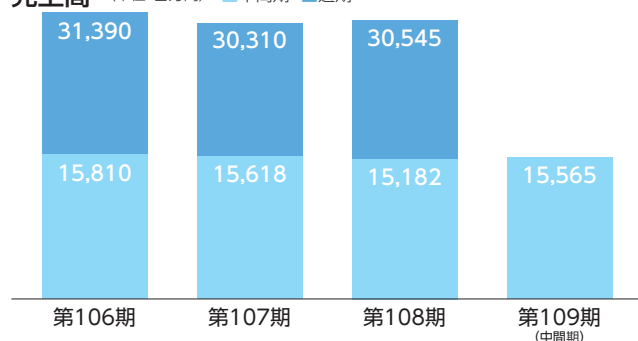


業績の ポイント

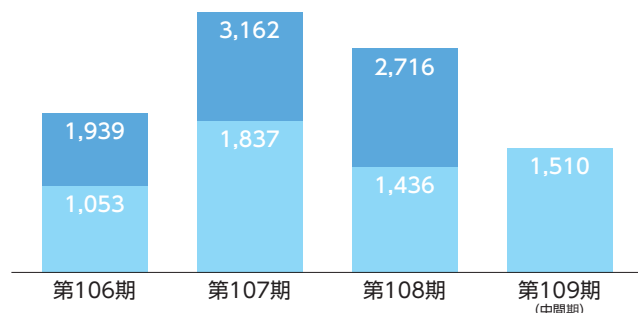
ポイント 1 前年同期と比較して化学品事業は増収、食品事業は減収となったが、全体では増収

ポイント 2 グループ全体で採算是正及び業務効率の改善等に取り組んだ結果、親会社株主に帰属する中間純利益は減益となったものの、営業利益及び経常利益は増益

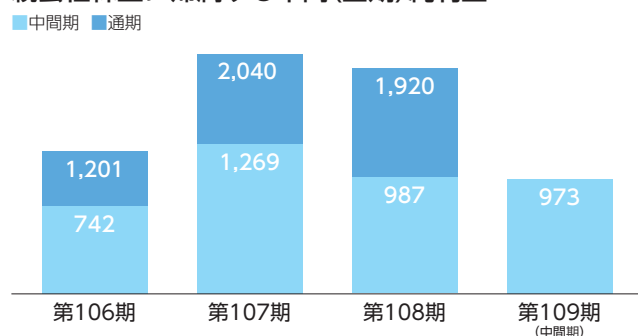
売上高 (単位:百万円) ■ 中間期 ■ 通期



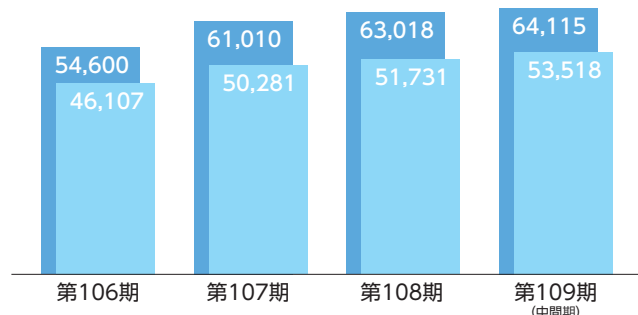
経常利益 (単位:百万円) ■ 中間期 ■ 通期



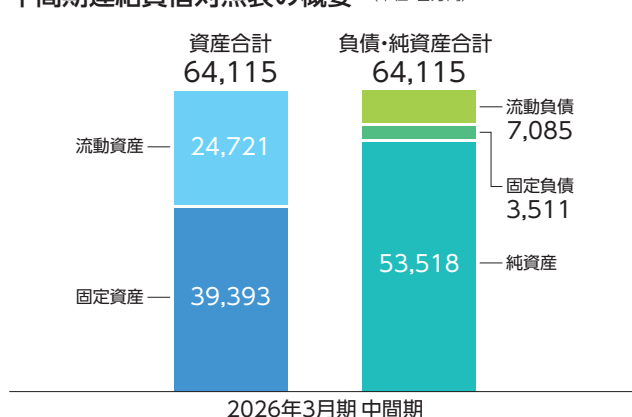
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (単位:百万円)



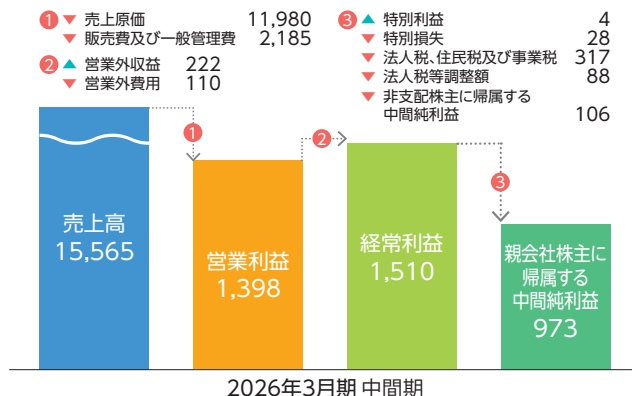
総資産 ■ 純資産 (単位:百万円)



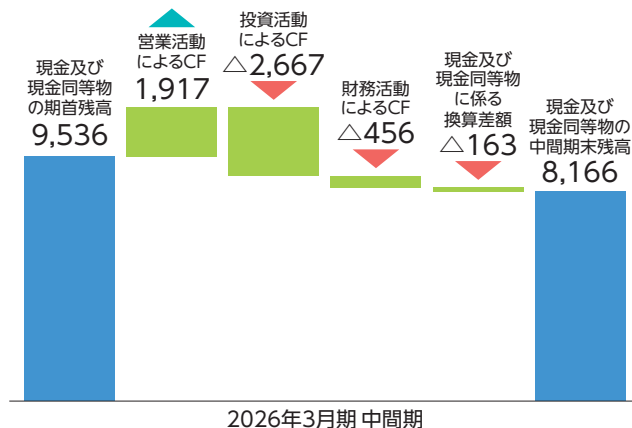
中間期連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



中間期連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



中間期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



最新・詳細情報につきましては当社のIRサイトをご覧ください。
<https://gunei-chemical.co.jp/ir/>

化学品事業

合成樹脂・高機能繊維の
製造及び販売

- ▶ 電子材料関連向け樹脂の半導体用途及び自動車関連向け樹脂は堅調に推移、その他用途向けは低調に推移。

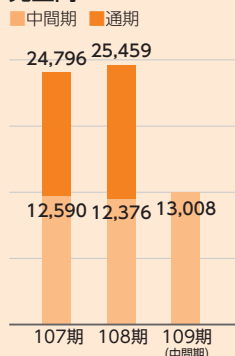
売上高 **13,008**百万円

(前年同期比5.1%増)

営業利益 **1,204**百万円

(前年同期比15.0%増)

売上高 (単位: 百万円)



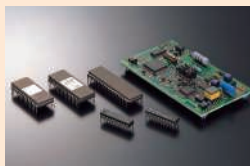
■高機能繊維「カインール」



「フェノール樹脂」を繊維にした高機能繊維「カインール」は、宇宙開発の研究から生まれ、当社が世界で唯一製造・販売しています。防炎性、耐熱性、断熱性、耐薬品性などの特長を有し、防災・安全用途や各種複合材に用いられるほか、活性炭繊維の優れた吸着性は溶剤回収用途等の環境調和分野にも使用されています。

当社の主要製品

■工業用フェノール樹脂「レドトップ」



電子半導体材料・自動車産業・住宅産業などあらゆる産業分野に不可欠な機能材料として使用されています。

主な用途

電子材料産業においては、シリコンウェハーに回路を形成する際に用いられるフォトリソグレイスや半導体封止剤などに「フェノール樹脂」が活用されています。自動車等の各種鋳造物産業においては、鋳物の鋳造に使われる砂型のバインダとして、「フェノール樹脂」は鋳造業界で欠かせない存在となっています。



住宅産業においては、ガラス繊維に「フェノール樹脂」を吹き付けてできる繊維マットが断熱・防音材として用いられるなど、住宅の施工に広く使われています。

■3Dプリンタ用材料

3Dプリンタは世界各国で国家プロジェクトにより活発な開発が進められており、当社は、日本の国家プロジェクト（2013年から2018年）に参画しました。鋳物業界で長年培ってきた当社の技術は鋳造用バインダ用途に活用されています。また、高耐熱プラスチック材料製品を自社開発し、製造販売及び成形品の提案も行っています。

食品事業

でんぷん糖類の
製造及び販売

- ▶ 外食産業を始めとする業務用需要やインバウンド需要により回復傾向も、商品構成の見直しにより販売数量が減少。

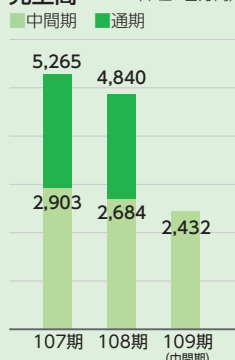
売上高 **2,432**百万円

(前年同期比9.4%減)

営業利益 **114**百万円

(前年同期比3.7%増)

売上高 (単位: 百万円)



■保水性糖質素材「ピュアトース®」

「ピュアトース®」は、主成分であるマルトトリオースが食品中の水を安定化します。その結果、食品にしっとり感を与え、食品が硬くなる現象(でんぷんの老化)を抑制します。また、低甘味で素材の風味を引き立てることができ、幅広い食品で利用されています。



当社の主要製品

■スリーシュガー (JAS果糖ぶどう糖液糖/JASぶどう糖果糖液糖)

JAS果糖ぶどう糖液糖(果糖分55%)、JASぶどう糖果糖液糖(果糖分42%)、これらに砂糖を混合した異性化液糖製品があります。砂糖よりすっきりとした甘味が特徴です。また、冷たいほど甘味が強くなるので、清涼飲料や冷菓に最適です。

■コーソグル群栄 (JAS精製ぶどう糖)

JASの基準に合致した、高品質、高純度のぶどう糖です。ぶどう糖は直接体内に吸収されるため、すぐれたエネルギー源となります。また、砂糖や果糖とも相性よくとけあいます。各種菓子類を始め、水産練製品、酒類、医薬品など、幅広くご使用いただけます。

■酵素水飴

当社独自の技術で製造された水飴は、ほどよい甘みと独特の粘りが特徴で、食品のデリ、ツヤ、コクを出すのに最適です。

■グンエイオリゴS

単糖が数個結びついたオリゴ糖は、人間の消化酵素で分解されないため、そのまま大腸に到達し、代表的な善玉菌であるビフィズス菌の増殖を助ける生理効果を持っています。当社のイソマルトオリゴ糖は、こうした生理効果を持ちながら、うま味、コク味も併せ持ち、健康ニーズにお応えしています。

不動産活用業

- ▶ 前年同期並みで推移。

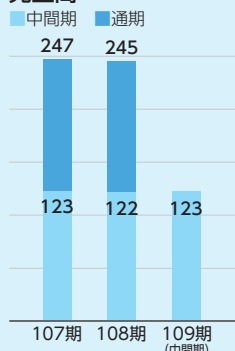
売上高 **123**百万円

(前年同期比1.0%増)

営業利益 **80**百万円

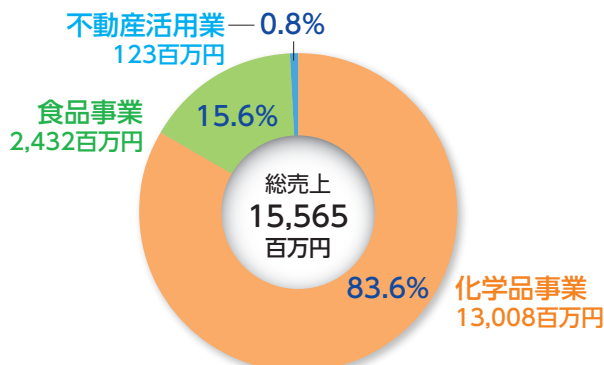
(前年同期比2.2%増)

売上高 (単位: 百万円)



事業別売上高構成(連結)

2025年4月1日～2025年9月30日



(注) 構成比率は、小数点第2位を四捨五入しております。

ありたい姿

化学の力でグローバルにソリューションを提供し、社会の持続的成長に貢献する
“Green Chemical Industry (GCI)” となる

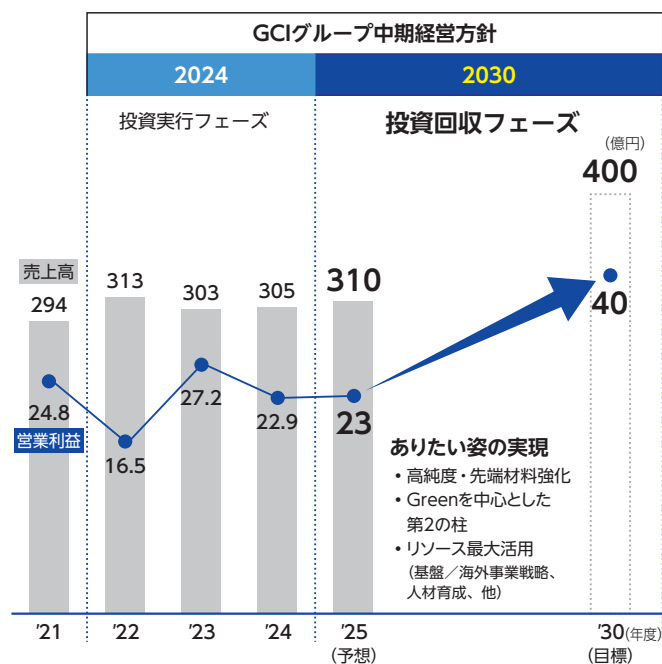
基本方針

- 事業ポートフォリオの再構築
- マーケティングによる事業領域の拡大
- 生産性向上、収益力強化
- 持続的成長を支える人材の育成、エンゲージメント向上

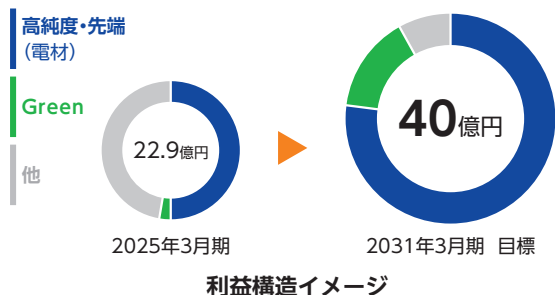
4つの目指す方向性

高純度・先端材料	環境対応ケミカル	新事業創出	経営基盤強化
競争優位性の獲得 次世代半導体関連製品のマーケティング・開発力の強化 高純度・高品質なモノづくりのための生産技術体制構築	Greenを中心とした次なる新事業へ（第2の柱） 吸脱着機能の追求と用途展開 事業を通じた地球環境への貢献	糖ケミカルによるGreenマテリアルの開発 マーケティング強化による新事業創出	リソースの最大活用 既存／海外事業戦略見直しによる収益最大化 サステナビリティを巡る課題解決（人材育成・デジタル化・CO ₂ 削減）

GCIグループ中期経営方針2030 数値目標



	2025年3月期 実績	2031年3月期 目標
売上高	305 億円	400 億円
営業利益	22.9 億円	40 億円
営業利益率	7.5%	10%
ROE	3.9%	6%
CO ₂ 排出量削減 Scope1・2 (2014年3月期比)	—	30%



キャッシュアロケーション

キャッシュアロケーション		取り組み
キャッシュイン	キャッシュアウト	設備投資など ・成長・合理化投資（電材強化・海外事業など） ・デジタル化投資 ・事業成長のためのM&A資金
営業CF 230億円	成長・合理化 140億円 [主要大型投資] 事業投資 40億円 デジタル投資 10億円 株主還元 70億円 その他 20億円	株主還元 ・継続的安定配当として配当性向40%目安 ・機動的な自己株取得

GCIグループのサステナビリティ

わたしたちGCIグループは「化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、より豊かな未来社会創りに貢献する」という企業理念に基づき、以下に掲げる指針に沿ってステークホルダーとの強固な信頼関係を構築し、サステナビリティを巡る課題への対応に積極的に取り組んでまいります。



GCIグループの
サステナビリティ

ESG	GCIグループのサステナビリティ	SDGs 17の目標
E	循環型社会の形成を目指し、地球環境の保全に努めます	3 持続可能な開発のための目標、4 質の高い教育をみんなに、7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任、つかう責任、13 気候変動に具体的な対策を、15 陸の豊かさを保ち、17 パートナリシップで目標を達成しよう
S	基本的人権・多様性の尊重、公正な評価により働きやすい職場環境づくりに努めます	3 持続可能な開発のための目標、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を推進しよう、8 働きがいも、経済成長も、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、17 パートナリシップで目標を達成しよう
S	健康で豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します	1 貧困をなくそう、2 健康をこころえ、3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、6 安全な水とトイレを世界中に、10 人や国の不平等をなくそう、11 住み続けられるまちづくりを、13 気候変動に具体的な対策を、15 陸の豊かさを保ち、17 パートナリシップで目標を達成しよう
G	製品の品質・生産性の向上及び安全性確保に努めます	8 働きがいも、経済成長も、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、12 つくる責任、つかう責任、13 気候変動に具体的な対策を、17 パートナリシップで目標を達成しよう
G	法令、社会規範、社内規程・規則を遵守し、公正な事業活動を行います	3 持続可能な開発のための目標、8 働きがいも、経済成長も、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、12 つくる責任、つかう責任、14 海の豊かさを保ち、15 陸の豊かさを保ち、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリシップで目標を達成しよう

子育て支援に積極的に取り組む企業として「くるみん認定」を取得

当社は2025年度、子育て支援に積極的に取り組む企業として厚生労働省より「くるみん認定」を取得いたしました。テレワーク制度の導入や育児と仕事の両立支援など、従業員が安心して働ける環境整備を進めてまいりました。今後も多様な人材が活躍できる職場づくりを通じ、持続可能な企業成長と社会貢献を目指してまいります。



3年連続で「CDP B-」評価

当社は、2022年度に初めてCDP気候変動質問書へ当社単体で回答を行い、その後は連結グループとして回答範囲を拡大し、2024年度まで3年連続で「B-」評価を取得しております。今後も当社として取り組むべきサステナビリティ課題について議論を行い、取り組みの強化を図ってまいります。



3年連続で「エコバディス・ブロンズ」格付け

当社では2022年度から3年連続でブロンズメダルを取得いたしました。評価基準が厳格化されていく中でも継続取得できたことは、当社のCSR活動の着実な成果と評価されたものです。今後も格付けの維持・向上に向けて、環境・社会・倫理・調達の各分野での取り組みを強化してまいります。



トピックス 高崎市産白加賀梅を活用したパーソナルケア商品発売

太陽の恵みあふれる東日本一の梅の里、群馬県高崎市。この地で大切に育まれた特産品「白加賀梅」を使用した新製品『Itezmi(テヅミ) モイスチャリペアシャンプー・トリートメント』を発売いたしました。これまで主に梅干しや梅酒など、食用として親しまれてきた白加賀梅に対し、「パーソナルケア」という全く新しい価値を創造し製品化したしました。本製品を通じて白加賀梅の消費拡大、ならびにブランド価値向上を実現し、地域経済の活性化に貢献することを目指してまいります。



トピックス 感光性絶縁膜用ポリマーの市場展開を開始

当社は、フェノール樹脂の基盤技術を応用し、先端半導体製造工程に用いられる感光性絶縁膜用ポリマーの開発を進めております。微細パターン形成に優れるフェノール樹脂と、耐熱性・耐クラック性に優れたポリイミドを融合することで、高解像度・低温硬化・PFASフリーといった特長を実現いたしました。これにより、高密度化が進む半導体パッケージにおいて、回路保護に不可欠な材料として新たなソリューションを提供いたします。現在は市場展開を開始しており、量産化に向けた製造技術の検討や次世代材料の開発にも取り組んでおります。今後も、半導体後工程材料の事業化に向けて、開発と拡販を積極的に推進してまいります。



会社の概要

商号	群栄化学工業株式会社 Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd.
設立	1946年1月23日
資本金	50億円
従業員数	548名(連結)

役員

代表取締役会長	有田 喜一	社外取締役	大村 康二
代表取締役 社長執行役員	有田 喜一郎	取締役 常勤監査等委員	笠原 勲
取締役 執行役員	丸山 克浩	社外取締役 監査等委員	平澤 洋一
取締役 執行役員	新井 光浩	社外取締役 監査等委員	鈴木 宏子

株式情報

Stock Information

(2025年9月30日現在)

株式の状況

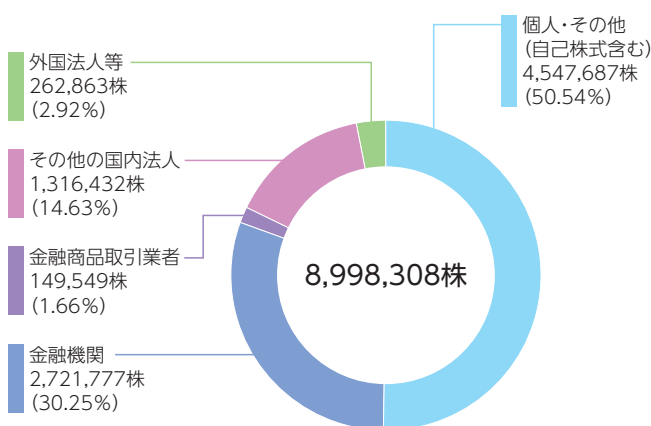
発行可能株式総数	17,621,100株
発行済株式総数	8,998,308株
株主総数	5,027名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	584,900	8.81
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ 三井化学株式会社退職給付信託口)	578,500	8.72
群栄化学取引先持株会	543,542	8.19
信越化学工業株式会社	329,800	4.97
株式会社群馬銀行	304,512	4.59
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	261,400	3.94
株式会社横浜銀行	245,853	3.70
三菱UFJ信託銀行株式会社	232,700	3.51
東京応化工業株式会社	168,330	2.54
日本生命保険相互会社	157,289	2.37

(注)持株比率は、自己株式(2,362,062株)を控除して計算し、小数点第3位を四捨五入しております。

所有者別株式分布状況(株式数)



(注)持株比率は、小数点第3位を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告 URL https://www.gunei-chemical.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載
幹事証券	野村證券株式会社 みずほ証券株式会社 SMBC日興証券株式会社

(お知らせ)

1 ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2 中間配当金計算書について

同封いたしております「中間配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。なお、配当金を証券口座でお受取り(株式数比例配分方式)の株主様は、お取引のある証券会社へご確認ください。

3 マイナンプーのお届出について

2016年1月より利用開始されたマイナンプーですが、こちらは株式の税務関係手続きでも必要となります。このため、株主様はお取引の証券会社等へマイナンプーのお届出をお願いいたします。

【株主様のマイナンプーの利用用途】

税務署に提出する支払調書(※)への記載

※配当金等に関する支払調書

単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

【マイナンプーのお届出に関するお問い合わせ先】

●証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。

●証券会社とのお取引がない株主様
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (通話料無料)

群栄化学工業株式会社

〒370-0032 群馬県高崎市宿大類町700番地
電話(027)353-1818(代表)
<https://www.gunei-chemical.co.jp>



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。